

## 1 学校の状況と地域の実態

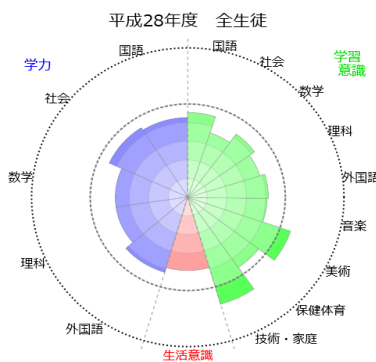
- (1) 中堅の教職員が少なく、近年、経験の浅い教職員が増えてきている。教科指導・生徒指導についてベテラン職員からアドバイスをもらっている。毎日打ち合わせを実施し、よりよい学校経営に全職員で努めている。
- (2) 教員は授業改善に向けて意欲をもって取り組んでいるが、より一層の充実が求められる。
- (3) 授業に落ちて取り組めない生徒が一部に見られたが、全体的に生徒の授業に対する取組は年々向上している。
- (4) 保護者、地域ともに学校の取組に協力的で理解がある。多くの生徒がまちな行事に参加している。

## 2 中期学校経営方針「確かな学力」取組目標

基礎・基本をおさえた授業展開とその指導力の向上を図るとともに、個に応じた取り組みを進め、基礎・基本の確実な定着による確かな学力を育成する。

## 3 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

### (1) 学力の概要と要因の分析



どの教科でも学力層で見ると高得点層の割合は市平均よりも下回っている。しかし、高得点層の割合は昨年度より全教科微増した。その結果、平均点も市に近づきつつある。また学習意識の高まりも認められる。

### (2) 教科学習の状況

- 国語：漢字の問題と読解問題が市平均を下回っているが、書く力が身につけている。
- 社会：資料活用の技能に課題があるが、学年が上がるにつれ、意識は高くなる。
- 数学：図形についての知識・理解に課題があるが、数学の学習を好む生徒は多い。
- 理科：データの読み取りに課題があるが、観察・実験の技能は市の平均を上回る学年もある。
- 外国語：表現する力と聞く力に課題があるが、学習への意識は学年が上がるごとに高まっている。  
(英語)

### (3) 経年変化の状況と要因の分析

各学年、各教科によって学習意識は異なり、市の平均を下回っているものもあるが、学年が進むにつれて学習意欲が高まっている教科もある。家庭学習の状況においても、市平均を下回ってはいるが、学年が上がるごとに学習時間は増える傾向にある。人とコミュニケーションをとることを好む生徒が多く、自分からあいさつができる生徒の割合も高い。最後までやり遂げた経験や自分のよいところがあるなど、自己肯定に関する回答は、市平均とほぼ同程度の状況が見られる。またスマートフォンや携帯電話の操作する時間が市の平均を超える一方、図書館の利用時間は市の平均より少ない。これらのことから、コミュニケーション力をさらに伸ばし、学習面については基礎・基本をおさえる授業を行っていく。

## 4 平成30年度 目標と具体的方策

平成30年度目標 基礎・基本の確実な定着による確かな学力の育成をめざす。

### (1) 学校組織としての共通の取組

- 生徒理解に一層努め、授業に対する意識を高める。  
自分の考えを織り交ぜながらノートをとろうとする主体的な態度の育成をはかるために、板書を工夫する。
- 教科指導の充実  
指導主事訪問による授業研究を実施し、学習の基本になる教科指導の充実をはかり、わかる授業をめざし、授業改善を行う。
- 家庭学習の習慣化  
長期休業や休み時間、放課後を利用して補習授業や学力向上の取組を行う。また学習相談を設定し、ここの学習の課題についてアドバイスをを行い、意識をたかめ、習慣化へとつなげる。

### (2) 学年・教科等としての取組

<b>国語</b>	<b>社会</b>
○漢字練習や辞書を使った意味調べなどを授業に取り入れることで、基礎・基本の定着をはかる。 ○読む力を伸ばすために、説明文・物語文を読む際の着眼点を丁寧に指導する。	○生徒が興味をもって、主体的に取り組めるような授業を工夫する。 ○知識や資料を読み取る技能の基礎・基本の定着を図る。
<b>数学</b>	<b>理科</b>
○学び合い活動を通して、基礎・基本の定着化を図る。 ○授業課題を明確にし、主体的に課題を解決する力を育成していく。	○基礎・基本の定着を目指し、授業での課題を明確に伝え、知識が獲得できる学習を展開する。 ○実験・観察等での生徒同士の学び合いを推進し、考察を充実させ、学力の向上を図る。
<b>音楽</b>	<b>美術</b>
○生徒が興味を持って、主体的に取り組めるように主題を工夫する。 ○歌唱や器楽の学習を通して生徒の表現力を豊かにできるよう指導の充実を図る。	○表現の幅広い活動をとおして創造の喜びを味わうことができるようにする。 ○様々な作品の鑑賞活動をとおして、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる。
<b>技術・家庭</b>	<b>外国語</b>
○学習活動をとおして、基礎的な技術と知識を身につけ、それを活用する能力と態度を育てる。 ○小学校や他教科での既習事項や生活体験・興味関心を把握し生徒の実態を踏まえ題材設定をおこなう。	○AETとの授業において積極的にコミュニケーションを図る場면을計画する。 ○既習文法事項を繰り返し使用できる場면을充実させ、自分の気持ちや考えを表現できるよう支援する。
<b>特別活動</b>	<b>総合的な学習の時間</b>
○豊かな集団活動をとおして心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。 ○集団の一員としてより良い生活を築こうとする自主的・自治的能力を育成する。	○課題を設定し学習していく中で追究方法を考え、課題解決をしていく能力を高められるようにする。 ○地域社会との関わりの中で自己の良さを発揮しようとする態度を養うようにする。
<b>個別支援学級</b>	
○個別の指導計画に基づき、課題、教材、授業形態、学習集団の構成などを工夫し、指導の充実を図る。 ○学習を日常生活に活かすことや作業学習を職業・就労意識へ発展させる指導のつながりを大切にする。	保健体育科は「体育健康プラン」を参照。 道徳は「豊かな心の育成推進プラン」を参照。